

September 10, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、続落 入札が堅調となり米長期金利が1.28%台まで低下**

9日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は109.72円と前営業日NY終値(110.25円)と比べて53銭程度のドル安水準だった。米長期金利の低下などをながめ円買い・ドル売りが先行。この日実施された米30年債入札が「堅調」だったことを受けて、米長期金利の指標である米10年債利回りが1.28%台まで低下幅を拡大すると、全般ドル売りが活発化した。2時過ぎに一時109.62円と日通し安値を更新した。一目均衡表の雲(上限:110.19円、下限:109.92円)を下抜けたことでテクニカル的な売りも出やすかった。ただ、8月米雇用統計が発表された3日の安値109.59円が目先サポートとして働くと下げ渋った。米長期金利が低下幅を縮めたことも相場を下支えた。

なお、米労働省が発表した前週分の米新規失業保険申請件数は31.0万件と予想の33.5万件より強い内容となり、昨年の新型コロナウイルス感染拡大以降の最少を更新。米雇用情勢の改善が示されたものの、為替相場への影響は限定的だった。

ユーロドルは4営業日ぶりに小反発。終値は1.1825ドルと前営業日NY終値(1.1816ドル)と比べて0.0009ドル程度のユーロ高水準だった。欧州中央銀行(ECB)がこの日の理事会で政策金利を市場予想通り0.00%に据え置き、パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の買い入れ規模縮小を発表すると全般ユーロ買いが先行。21時過ぎに一時1.1841ドルと日通し高値を付けた。

ただ、ラガルドECB総裁が理事会後の会見で「PEPP購入ペース減速はテーパリングではなく、微調整」「ECBは次の動きについて議論していない」との考えを示すと、一転ユーロ売りが優勢に。23時30分過ぎに一時1.1805ドルと日通し安値を更新した。

もともと、前日の安値1.1802ドルが目先サポートとして意識されると買い戻しが優勢に。米長期金利の低下に伴うドル売りも出て、1.1840ドル付近まで値を戻している。

ユーロ円は続落。終値は129.74円と前営業日NY終値(130.27円)と比べて53銭程度のユーロ安水準。ECB理事会後に一時130.15円付近まで強含む場面もあったが、ラガルドECB総裁が今回の決定について「テーパリングではない」と強調すると一転下落した。23時30分過ぎに一時129.67円と日通し安値を更新した。市場では「ECBは慎重姿勢を維持した」と受け止められた。

米ドルカナダドルは軟調だった。原油先物価格の下落を受けて産油国通貨とされるカナダドルには売りが強まる場面もあったが、マックレム・カナダ銀行(BOC)総裁が「量的緩和(QE)による景気刺激策を継続する必要がない時期に近づいている」との考えを示すとカナダドルを買う動きが広がった。2時過ぎに一時1.2623カナダドルまで値を下げた。

**【本日の東京為替見通し】香港株の動向が市場の焦点に、明日からFRBはブラックアウト期間**

本日の東京時間のドル円は、昨日同様に香港株を見た動きとなるか。昨日の株価の下げは、中国当局のゲーム企業やプラットフォーム企業に対して、未成年者のゲーム利用制限の厳格な運用を求めたことを受け、テンセント株が8%超下落するなど香港・ハンセン指数の大幅続落がきっかけとなった。為替市場の反応は、はじめは些細なものだったが、次第に豪州株式市場が反応し、豪ドルが対ドルと対円ともに弱含み、ドル円単体にも影響を及ぼした。本日は昨日の下げ幅が大きかったことで反発をするのか、もしくはは続落するのかを見定めることが重要になる。

明日から21-22日の米連邦公開市場委員会(FOMC)に向けてブラックアウト期間に入ること、本日のメスター米クリーブランド連銀総裁の講演以後は米連邦準備理事会(FRB)高官の発言が控えられる。今年にはクリーブランド連銀総裁には投票権がないことや、今週に入ってからのFRB高官の発言での市場の反応が非常に限られていることで、本日も発言で市場は動意づかないか。また、今週に入りJOLT求人件数や前週分の米新規失業保険申請件数など雇用指標が好結果だったのにもかかわらず、米債券・為替両市場とも反応が鈍かったことで、本日はNY時間も大きな動きを期待するのは難しい。

米国の政治状況では3.5兆ドルの景気刺激策について、民主党は9月15日までに法案の準備を整えたいとしている。問題は現時点で反対を表明している、ウェストバージニア州選手のマンチン上院議員の行方で、米国では連日マンチン議員の動向が注目の的になっている。現時点での為替市場への影響は限定的だが、今後の米議会の動向が市場へ与える影響もあることで注目したい。

ドル円以外では上述したように、アジア時間では豪ドルの動きが市場を先導しそうだ。対ドルや対円だ

けでなく、対NZドルでも8月末にオプションのバリアを突き抜けて急落した水準が近づいていることで、豪ドル/NZドルの動きも要注目となる。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>  
特になし

<海外>

- 15:00 ◎ 8月独消費者物価指数 (CPI) 改定値 (予想: 前月比横ばい/前年比 3.9%)
- 15:00 ☆ 7月英国内総生産 (GDP、予想: 前月比 0.6%)
- 15:00 ◎ 7月英鉱工業生産指数 (予想: 前月比 0.4%/前年比 3.0%)
- 15:00 ◎ 7月英製造業生産高 (予想: 前月比 0.1%)
- 15:00 ◇ 7月英商品貿易収支/英貿易収支 (予想: 110.00億ポンドの赤字/16.00億ポンドの赤字)
- 15:00 ◎ 8月ノルウェーCPI (予想: 前月比▲0.3%/前年比 3.1%)
- 15:45 ◇ 7月仏鉱工業生産指数 (予想: 前月比 0.4%)
- 16:00 ◇ 7月トルコ失業率
- 17:00 ◎ ビルワドガロー仏中銀総裁、講演
- 18:30 ◎ ラガルド欧州中央銀行 (ECB) 総裁、記者会見
- 19:10 ◎ エルダーソン ECB 専務理事、講演
- 19:30 ◎ ロシア中銀、政策金利発表 (予想: 7.00%に引き上げ)
- 20:00 ◇ 7月メキシコ鉱工業生産 (季調済、予想: 前月比 0.3%)
- 21:00 ◎ 7月インド鉱工業生産 (予想: 前年同月比 10.7%)
- 21:00 ◎ 7月ブラジル小売売上高指数 (予想: 前年同月比 3.5%)
- 21:30 ☆ 8月カナダ雇用統計 (予想: 新規雇用者数変化 10.00万人/失業率 7.3%)
- 21:30 ◇ 4-6月期カナダ設備稼働率 (予想: 81.2%)
- 21:30 ◎ 8月米卸売物価指数 (PPI、予想: 前月比 0.6%/前年比 8.2%)
  - ◎ 食品とエネルギーを除くコア指数 (予想: 前月比 0.5%/前年比 6.6%)
- 22:00 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、講演
- 23:00 ◇ 7月米卸売売上高 (予想: 前月比 1.0%)
- 23:00 ◇ 7月米卸売在庫 (予想: 前月比 0.6%)
- 11日 01:00 ☆ 4-6月期ロシア国内総生産 (GDP) 改定値 (予想: 前年比 10.3%)
- ユーロ圏財務相会合 (非公式)

13日

<国内>

- 08:50 ◇ 7-9月期法人企業景気予測調査
- 08:50 ◇ 8月企業物価指数

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

9日 07:20 カプラン米ダラス連銀総裁  
「9月のテーパリング(資産購入の段階的縮小)発表、10月開始をデータは示している」  
「成長が今後数年間で2%のトレンドに減速しても驚かない」

9日 19:05 ポスティック米アトランタ連銀総裁  
「年内にテーパリングが開始される可能性は残されている」

9日 20:49 欧州中央銀行(ECB)声明  
「パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)のペースをやや減速」  
「インフレ率は一時的に目標をやや上回る可能性がある」  
「PEPPは少なくとも2022年3月末まで継続」  
「PEPPの購入債券は少なくとも2023年末まで再投資」

9日 21:36 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁  
「経済は年末にはコロナ危機前の水準を回復するだろう」  
「景気回復の改善はますます進んでいる」  
「インフレ見通しはやや上向きに修正された」  
「労働市場は急速に改善している」  
「2021年GDP見通しは5.0%(前回は4.6%)」  
「2022年GDP見通しは4.6%(前回は4.7%)」  
「2023年GDP見通しは2.1%(前回は2.1%)」  
「2021年インフレ見通しは2.2%(前回は1.9%)」  
「2022年インフレ見通しは1.7%(前回は1.5%)」  
「2023年インフレ見通しは1.5%(前回は1.4%)」  
「欧州中央銀行(ECB)は、テーパリングではなく、微調整を行う」

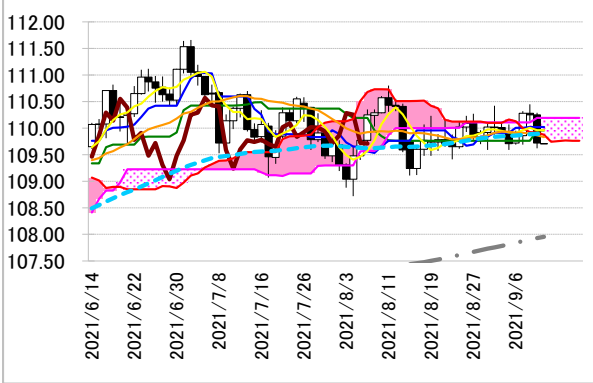
10日 00:33 ディアスデレオン・メキシコ中銀総裁  
「ビットコインは決済手段というよりもボラティリティの高い投資のようなもの」

10日 00:42 ECB 筋  
「政策担当者は、PEPPの月ベース購入目標額を600億ユーロから700億ユーロの間で柔軟に対応することで合意」

10日 01:24 マックレム・カナダ銀行(BOC)総裁  
「量的緩和による景気刺激策を継続する必要がない時期に近づいている」  
「テーパリングの時期は経済情勢次第」  
「少なくとも利上げまでは、QE(量的緩和)で得た資金を再投資していく」

10日 02:33 ボウマン米連邦準備理事会(FRB)理事  
「予想通りのデータが得られれば、今年中にテーパリングを開始することが適切」  
「物価安定に関し、大きな進歩を遂げた」  
「雇用の実質的進展という目標に非常に近づいている」  
※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

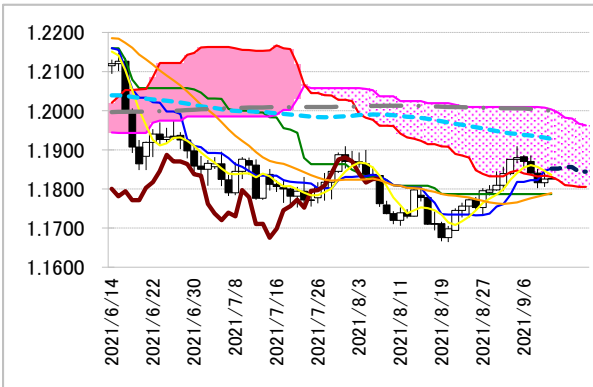


### <ドル円=雲を再び下抜け>

陰線引け。一目均衡表・雲の上限 110.19 円をサポートにできず、先週末3日以来の安値 109.62 円まで下落した。

ここからは雲が抵抗となり、さえない流れが続くか。雲の中で低下中の21日移動平均線や、109.96 円に位置する一目・基準線も重しとなるだろう。

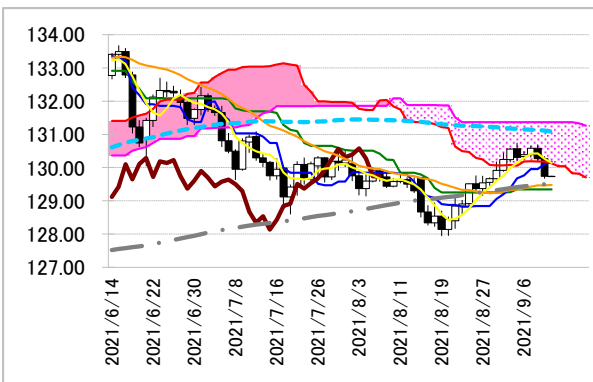
レジスタンス 2	110.45(9/8 高値)
レジスタンス 1	110.19(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	109.72
サポート 1	109.11(8/16 安値)



### <ユーロドル=雲こなしでも転換線がやがて重しに>

小陽線引け。1.1830 ドル台の一目均衡表・雲の下限を割り込み、戻しきれず NY 引け時点で下回ったまま。相場が横ばいを維持できれば、ここから低下が続く雲の下限を上回ることにはできる。しかし、現状からすれば、雲の中で上昇中の一目・転換線が来週 1.1856 ドルまで上昇したところで頭打ちとなる公算。同線が抵抗となり、上値を重くすることが考えられる。

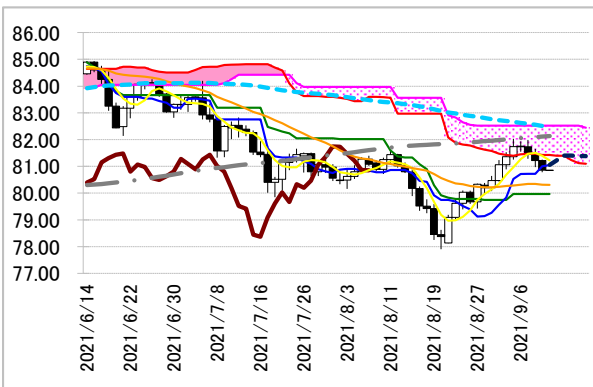
レジスタンス 1	1.1860(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.1825
サポート 1	1.1783(8/30 安値)



### <ユーロ円=反発しても雲の下限前後が重そう>

陰線引け。1 日以来の 129 円台へ下落して NY の取引を終えた。129 円台は、現相場水準のやや下に上昇中の 21・200 日移動平均線や、一目均衡表・基準線といった複数のテクニカル指標が控えている。これらの指標付近で下落の流れが停滞し、昨日までの下落に対する自律反発のような戻りが入ることは想定できる。しかし、低下傾向の一目・雲の下限 130.13 円や同水準付近で低下中の 5 日線が上昇幅の拡大を妨げそう。

レジスタンス 1	130.14(5 日移動平均線)
前日終値	129.74
サポート 1	129.35(日足一目均衡表・基準線)



### <豪ドル円=転換線に追従して戻しても、やがて頭打ちか>

陰線引け。一目均衡表・転換線のサポートを割り込んで NY を引けている。本日 81.05 円と上昇へ転じた転換線へ追従するように戻す展開も想定できる。しかし同線が一目・雲の中へ入る見込みの来週 14 日には、雲が抵抗となって追従しきれなくなるか。一目・基準線 79.96 円方向を意識した流れへ転じるリスクがある。

レジスタンス 1	81.43(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	80.86
サポート 1	80.49(ピボット・サポート 2)

